

附属大塚 学校だより

本校は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。

「振り返る」ことから始まる「自分らしい生き方」を考えること ～キャリア学習の扉④

学校だより5号と6号で紹介した「キャリア学習」の話の続きです。高等部では「働く生活」に向けた学習に加えて、自分らしい生き方について考えながら、将来の「夢」や「願い」の実現に向けた目標を設定しています。生徒達は、日々の学習や現場実習における振り返りを通して課題に向かう力や主体的に目標に向かう姿勢を身につけています。しかし「自分らしい生き方」を考えることは簡単なことではありません。まず「自分らしさ」って何でしょう。Aさんの生き方、Aさんとは違うBさんの生き方、私の好きなことや得意なこと、私が大事にしていること、私が考えていること、そんないろいろな「コト」に向かう自分を大切に生きていくことが「自分らしい生き方」なのではないでしょうか。

特別支援教育では、たくさんの経験や学びを通して、自分自身のことについて「気づき、考える」ことが大切です。ですから幼稚部小学部の段階では、まず様々な「ヒト・モノ・コト」に興味関心を向ける中で、「〇〇が好き」と行った自分に気づくことが大切です。そして中高等部の段階では、主体的に「ヒト・モノ・コト」へ向かう気持ちを育てながら、自分が得意なこと、大事にしていることなどについて考えることが将来の「夢や願い」を育てていきます。

先日、幼稚部では、夢中になって絵を描く幼児さんがいました。その真剣な表情や笑顔は「楽しいコト」に向かう気持ちが溢れています。一方、中学部では、「合同生活」の時間に学んだことの発表や「振り返りシート」を活用しながら丁寧な学習の振り返りをしていました。

本校が、振り返りの活動を大切にしているには理由があります。一つは、「振り返りの経験」が「他者を認める機会」と「他者に認められる機会」につながるからです。この経験は、子供一人一人の自尊感情や自己効力感を育ててくれます。そして、もう一つは、いま学んだこと、これまでに学んだことを振り返る経験が、「自分が知っていること」や、「自分にできること」、逆に困難なことなど、様々な自分自身について考える学習機会となるからです。その積み重ねによって、子供達が自己理解（メタ認知）を深めることができるようになるからです。こうした力は、将来の職業選択や意思決定を可能にしてくれます。「振り返る」ことは、まさに一人一人の「自分らしい生き方」について考えるきっかけとなり、生涯の「キャリア発達」を支えてくれるのです。（メタ認知については、学校だよりNo.9「自分が知っていること」について考えること～教室の窓から⑥～をご参照ください。）



走ることも楽しいことに一つですね。いつも元気な幼稚部の子供達です。



興味関心を育むこともキャリア発達を支えてくれます。



中学部サーキットの振り返りでは、頑張った人にメダルが与えられます。



生徒の目標に応じた「振り返りシート」を活用する中学部の学習。

世界とつながるみんなの目標「SDGs」 ～教室の窓から⑪～

ところで、今回の学習指導要領改訂では、全ての学校教育において「社会に開かれた教育課程」を目指すことが強調されています。これは「よりよい社会を創るという目標を社会と共有する」ということです。

実はその背景には、国連が示す「持続可能な開発目標（SDGs*1エスディージーズ）」（2016）と言われる17のゴールがあります。このSDGsは、全ての国連加盟国が2030年までの達成を目指す共通の目標のことです。具体的な17のゴールには、「貧困をなくそう（目標1）」、「飢餓をゼロに（目標2）」、「すべての人に健康と福祉を（目標3）」などがあり、地球の未来のために人類がはじめてつくった「共通の目標」として各国がその責任を担っています。*1 Sustainable Development Goals

人類が目指す17のゴールと聞いたとき、それは知的障害教育にどう関係があるのかと思われるかもしれません。しかし、それは間違いです。17のゴールの一つには、「つくる責任つかう責任（目標12）」の中で持続可能な消費と生産のパターンを確保するという目標があります。高等部が取り組むペットボトルキャップの回収や、ライフキャリア学習（作業学習）3班による紙パックを利用したアップサイクル商品の開発はまさにこの目標に向けた取り組みの一つと言えます。ここで大切なことは、生徒自身が国連の目指す「SDGs」の取り組みを自分たちもしているという自覚を持つことです。「夢や願い」を持ち、社会や周囲の人々へ「意思の表明」ができるようになる力の育成を目指す本校だからこそ、自らが国際社会と同じ目標を持って生活することで、「支援される立場」から、「支援する立場」として主体的に社会参加する気持ちが育つことを願っています。

知的障害のある子供たちが「国際社会に貢献する」こと、「未来を創造する」ことを学校教育共通の目標として取り組み、将来、胸を張って主張したり、地域の代表を選ぶことで政治に参加したりすることが当たり前の世の中になることを目指していきたいですね。

「SDGs」17番目の目標は、「パートナーシップで目標を達成しよう」です。「誰と？」、それは国連に加盟する世界中に人々です。本校の生徒達も全員が「世界とつながり」、「世界中のみんなと」一緒に目標に向かうことができるのです。高等部では、文京区選挙管理委員会と連携して主権者教育に取り組んでいます。選挙に参加することは、政治に参加することです。そのためには、その仕組みを知ることが大切です。一方で、投票の際に合理的配慮を要請したり、立候補者にmanifestoの解説を求めたりすることなどが、共生社会の実現に向けた一つのアクションになっていくと思われます。附属大塚を巣立った大人達が、将来、世界とつながりを持ち、日本国民の一人として、互いを尊重し合いながら社会をつくり、「人類の未来」「地球の未来」について考えるって素敵なことではないでしょうか。共生社会は「誰が」作るのか、その答えは一つ。「すべての人」が「すべての人」と作るのです。



紙パックのラミネート加工を剥がし、ちぎったパルプをさらに細かくミキサーをかけて作った油吸い取り商品。



牛乳パックの裏面を生地にしたエコバックは、ミシン掛けをして製作します。こうした商品は、リサイクルではなく、新しい価値のあるものに作り替えるアップサイクル商品と言います。まさに持続可能（サステナブル）な消費と生産です。



出来上がったエコバック。生徒が揉み込んだ紙は表面の質感を高めています。オリジナルの赤い商品タグがアクセントになっています。

高等部修学旅行の紹介 2月12日～15日（3泊4日）

平成28年4月に起きた熊本地震以降、高等部の修学旅行は熊本大学教育学部附属特別支援学校高等部と交流会を続けています。第1部では、本校生徒が熊大附属の先生から震災直後の様子から現在に至る復興の様子について学び、災害時に自分の身をどう守るのかについて考えました。第2部の交流会では、熊大附属の生徒達による復興に向けた取り組みのプレゼンがあり、その後互いの学校紹介や、くまモンダンスなどをして楽しく盛り上がりました。3年目とあって和やかな雰囲気の中で心に残る交流ができました！迎えてくれた3年生は、2年生の修学旅行で本校を訪れた生徒たちです。復興支援が縁となった熊大附属との交流、これからも続くといいですね。（生徒の縁は教員間にも広がり、9月に行われる日本特殊教育学会では、互いの発表を通して情報交換をしています。）



3月の予定

- 1日（金）お別れ会（幼）
お別れ遠足（小1.2年）
学年レク（高1.3年）
発育測定（幼小）
- 4日（月）合同朝会・卒業式練習②
- 5日（火）卒業式予行練習
学部懇談会（小） 12:30～会議室
- 6日（水）校外学習（小3.4、中3）
14時下校（小）
- 7日（木）校外学習（小5.6）
お別れ会（中）体育館
保護者会（中）
- 8日（金）お別れ会（小）プレイルーム
校外学習（中2）
卒業生を送る会（高）体育館
東大ブラスバンド演奏

- 10日（日）目白ロードレース（希望者参加：中高）
文京ドッジビー大会（希望者参加：高）
- 11日（月）合同朝会・卒業式練習③
- 12日（火）附属高校交流⑥（中）体育館
- 13日（水）給食終了（お祝い給食）
- 14日（木）短縮日課11:15／11:30下校
- 15日（金）卒業証書授与式11:30下校
- 18日（月）合同朝会（最終）
短縮日課11:15／11:30下校
- 20日（水）平成30年度修了式
離任式①9:20～ 10:15／10:30下校

4月の予定

- 8日（月）平成31年度始業式10:15／10:30下校
- 9日（火）入学式10:50／11:30下校
- 12日（金）学校運営説明会・保護者会10:00～
離任式②（詳細は後日）

編集後記 今年度の学校だよりも本号（No.12）で最終です。本校が取り組む教育や日々成長する子供達の育ちをお伝えしてきた学校だよりですが、みんなの様子をお伝えすることはできませんでした。次年度に向けては、「チーム大塚」全教員が「チルドレンファースト」で学校を運営し、子供達の権利、願い、主体性を尊重した教育で成長を支えていきます！学校だよりは、そんな子供と教員の姿をこれからも紹介したいと思います。どうぞ今後もあたたかいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。